

コーテン 『ポスト大企業の世界』

デヴィッド・コーテン氏は、アメリカ政府の経済政策を推進する立場で30年間以上、中米や東南アジアで経済開発を指導してきた経済学者であるが、自分の進めてきた経済政策が、地域の人々の生活、環境を破壊し、苦悩に追いやっている原因であることに気づいた。そして1980年代半から、民衆中心の経済発展を訴えるようになった。そして著書『グローバル経済という怪物 人間不在の世界から市民社会の復権へ』ではアメリカ経済がいかにも人々を苦悩においやっているかを具体的に描き、『ポスト大企業の世界 貨幣中心の市場経済から人間中心の社会へ』では、経済民主主義を中心とした資本主義社会を超えるビジョンを提出している。

コーテン 『ポスト大企業の世界』 (文責：吉見)

1) 資本主義批判

(1) 少数者の富裕化と貧者の極貧化の進展

デビット・コーテン氏は、なぜ、資本主義社会批判の急先鋒に転じたのでしょうか。彼は、世界から貧困をなくすために低開発国の開発に貢献すべく30年間、エチオピア、ニカラグア、フィリピン、インドネシアなどですごしました。その中で立派な空港ができ、ホテルがたち、品揃えあるお店がならび、高速道路を自動車が走り、外からみると開発の成果はすばらしくあがっていました。しかし、コーテン氏は、恩恵を受けているのは少数のひと達で、何百万人の人々は、開発よって貧困にあえいでいることに気づきます。

「だが、そこにはもうひとつの現実があった。典型的な開発シナリオでは予見できなかった現実だ。上っ面をめくれば、何百万人もの人々が人間性をうしなうほどの貧困にあえていた。開発がかれらの生活に土足で踏み込んだ結果である。質素ながら人間としての尊厳ある生活をおくっていたのに、開発プロジェクトのせいで、家や地域社会を追われた人々の数は想像を絶するほどだ。豊かなものをもっと豊かにするために、貧困者の生活を破壊した。開発の犠牲者が明日をも知れぬ生活を送る一方で、富裕層による目先の利益の追求のために、自然は破壊されつつあった。……」

アメリカやヨーロッパの工業国でも、似たようなプロセスを経て、社会や環境の荒廃が進行していることに気づいたのである」『ポスト大企業の世界』P.9

「私はアジアでくらしした15年間、資本主義から疎外された人々の運命をこの目で見てきた。そこでは毎年何百人もの人々が、ダム、プランテーション、工業団地、エビの養殖場、幹線道路、ゴルフ場、観光用リゾート地、軍事施設などの開発計画の用地として、土地や水源や漁場を取り上げられ、家や生活手段をうしなっている。多くの場合、これらの開発計画の資金の少なくとも一部は、対外援助や世界銀行の融資によるものだ。生活手段を失った人々はほぼ例外なく、たんなる貧困から絶望的な極貧状態においこまれる。……」同書P.121

このようにコーテン氏の資本主義批判は、一方で少数者への富の集中、他方で貧困と不

安定にあえぐ多数の人々、そして富裕者のための開発による環境の破壊の進行にあります。

少数者への富の集中については彼は次のように言及します。

「1995年、世界の上位200社、これらの会社で働いている人はわずかに一億8800万人、世界人口の0.4パーセントの売り上げ総額は、世界の国内総生産GDPの28%におよんだ。三菱商事の売り上げ高は世界第四位の人口をもつインドネシアのGDPを超えた」同書P.68

2) 「生命を見る」 資本主義にかわる社会モデル

そこで、資本主義にかわるコーテン氏のビジョンを見てみましょう。

(1) 生物のメタファー

コーテン氏の未来社会論の特徴は、生物学の進歩で解明される生命の個と全体という「社会的」なあり方にあります。

「生命には、協調的な選択をすることによって、自己組織化をおこなうすばらしい能力がある。……機械のメタファーでは、官僚主義的な国家や企業が社会を支配して、ホップズが言った『万人の万人に対する闘争』から人々を守らなくてはならないとされるが、生物のメタファーでは、人間社会が協調的な自己組織化を行えば、想像もつかないような創造的能力が発揮される可能性があるからだ。個が集まってまったく新しい実体を作り上げるといふ生命の能力もまた、注目に値する。新しい生まれた実体は、まとまった単一の存在として、それを構成する個の自由や一貫性を犠牲することなく機能する」同書 P.174～175

(2) 生命の智慧から学ぶ

では、コーテン氏は生命から何を学んだのでしょうか。次の六つをあげています。

①自己組織化

「自分自身がひとつの全体として機能すると同時に、より大きな全体の一部としても機能するのだ」

「理論物理学者であり、哲学者でもあるフリチョフ・カプラによれば、一見相反するふたつ傾向、すなわち『自己主張する傾向と、全体との調和を図る統合的な傾向はともに、生命系の本質的な特徴である』。自己主張によって個は自らの完全性を守り、全体の創造的能力に不可欠な多様性を維持する。しかし、全体の創造的能力をいかになくはきするためには、必ず、統合の過程を経なければならない。このふたつの傾向の間のダイナミックな緊張関係は、進化のプロセスに本質的に備わっている。自己主張が元来競争的であるのとは裏腹に、統合には共通の利益をめざす協調が必要だからだ」同書P.171

②儉約と共有の精神

「生命はどんなエネルギーでも、必要にあわせて効率よく摂取し、利用し、蓄積し、共有する能力がある」

③自己完結的地域密着型社会

「生命は他の生命との関係の中でしか存在しえないので、あるひとつの場所を共有する種は、自己完結的で地域密着型の生物群集を組織し、その中で相互適応することによって、利用可能なエネルギー源を最適な方法で共有し、利用し、蓄えることを学ぶ」

④協調

「相互依存的な生命の世界では際限なき競争はたいてい自滅におわる。生き延びて繁栄するのは、他者にも利益を与えながら、自分のニーズを満たせる生態的地位を見つけたものだけだ」

⑤境界線の維持

「各生命体が体内にエネルギーの流れを作り出し、制御するには、この境界線が不可欠になる。細胞の完全性を保つのに、細胞膜がいかに重要な役割をはたしているか考えてみるといい」

⑥多様性、創造的個性、学習の共有

「多数の個から構成される自己組織化システムには、環境の変化に応じて新たな能力を開発する革新的な力がそなわっている」同書 P.187

(3) 生命の智慧から見たグローバル経済の問題点

生物群集の特質を、グローバル資本主義経済に比較してコーテン氏は次のようにいいます。「グローバル資本主義経済は、『場所』すなわち地域社会への愛着もなければ、全体の幸福に対する意識も関心もない巨大グローバル企業が作り上げた中央集権型経済である。大昔から蓄えられてきた地球上の太陽エネルギー（化石燃料）を枯渇させ、エネルギーと物質のかく社会ごとの自給自足体制を崩すことで機能する。かく地域の生態系の自然な生産プロセスをコンクリートや化学物質を使って阻み、数千マイルもの長さの供給経路に依存している。環境からとりこまれて分化したエネルギーや物質をことごとく、役にたたないばかりか有害な汚染物質やゴミと化す。生物と文化の多様性にしても金儲けに役立つものしか保存しない」同書 P.167

3) ポスト大企業世界におけるシステム設計

(1) 自立的コミュニティの地球的ネットワーク

以上の生命の智慧から学んで、コーテン氏は次のようにグローバル経済の対案として自立的コミュニティの対等なネットワークの地球社会を構想します。

- 1) 人間的な規模の自己組織化
- 2) 集落型居住形態
- 3) 町と地域センター
- 4) エネルギーの自給自足体制
- 5) 閉サイクルでの物質利用（地域の中でリサイクル、リースなど）
- 6) 地域内外の環境バランス

- 7) 健全な暮らし
- 8) 地域間電子コミュニケーション
- 9) 野生生物の生息空間

さらに健全な市場のあり方について次の10原則を提起します。

- 1) 生命を価値判断の基準に
- 2) コストは意志決定者が負担する
- 3) 人間的な規模の企業と利害関係者による所有制の奨励
- 4) 公平のための闘争
- 5) 完全な情報開示
- 6) 知識・技術の共有
- 7) 多様性と自立性の追求
- 8) 境界線を意識する
- 9) 政府が果すべき役割を尊重する
- 10) 道徳的文化の維持

(2) 経済民主主義

健全な市場のための十原則の中に、「人間的な規模の企業にして利害関係者による所有制」にするというのがありました。

これは実際には協同組合です。企業という公的な資産を共有するシステムです。コーテン氏は次のように説明します。

「経済民主主義とは、生産的資産を広く大衆に所有させ、その所有権を資産が属する地域社会にしっかりと結びつけるという考え方だ。このような体制をつくる目的はふたつある。

ひとつは安定的で十分な生活手段を得る個人の権利を保護すること。

もうひとつは意志決定とそれがもたらす結果を結びつけてとらえることによって、自分だけでなく、他人や周囲のことも配慮して経済資源を利用する態度を身につけることだ」同書 P.248

「所有権と所有者としての権限を株主から利害関係者に委譲するという抜本的改革は、企業の本質的役割を貨幣の手先から、生命と地域社会の奉仕者に転換する」同書 P.259
そして、この所有システムが健全に機能するために、「所有には責任がともなうという考え方をもちた活力ある文化の発展に力をそそがねばならない」と述べています。

4) 変革の道筋・・・何をなすべきか。

では、そうした社会を実現するためにコーテン氏は何をしようといっているのでしょうか。それは政治から身近なことまできわめて多面的な領域にひろがっています。

(1) 消費者として

「最終的な目標は、グローバル資本主義を健全でグローバルな市場経済に置き換えることだ。そのためには、資本主義が差し出す選択肢を選ぶのをやめて、健全な市場健在が差し出す選択肢を選ぶ機会を徐々にふやしてゆこう」同書 P.398、と述べ、彼が地域社会の人の生産したワインを選ぶことを紹介しています。地元の人たちが生産したもの買おうという消費者の意識を育ててゆくことを提起していると解釈します。

そして「もちろんそれだけ資本主義が打倒できるわけではない。さまざまなレベルで、さまざまな方法を用いて努力する必要がある」同書 P.399 と述べて、「私に何ができるのか」それぞれの持ち場でそれぞれが考えてみようと呼びかけています。

(2) 政治に対して

政治に対しては大企業への優遇をやめ、大企業の規制を実現することをもとめてゆこうと呼びかけます。

たとえば「生命ある人間の権利を取り戻すための六つの課題」として

- 「1) 政治的民主主義を復活する
- 2) 企業人格化という法律上の虚構を捨てる
- 3) 国際企業と国際資金フローを規制する国際協定を結ぶ
- 4) 企業優遇を廃止する
- 5) 貨幣の役割を交換媒体にもどす
- 6) 経済民主主義を推進する」をあげています。

あるいは「大企業、多国籍企業の規制のルールをつくれ」と次のように提案します。

「◎企業に人間と同等の権利をあたえるみなし規定をやめ、企業による政治関与を廃止する。

◎政治が金で左右されないように、真剣の選挙運動改革にとりくむ。

◎企業優遇を廃止するために、直接補助金を廃止し、外部化された費用は各種賦課金や税金という形で、企業に負担させる。

◎国際企業や国際投資を規制する仕組みをつくる

◎金融投機にうまみがなくなり、利害関係者が所有する人間的な規模の企業に利益をもたらすような財政政策や規制を実施する。

◎銀行から投機家への資金提供を禁止する

◎投資収益を上回る税率でキャピタル・ゲイン課税を実施する

◎貨幣保有税を課す」

などを提案しています。

(3) 経済民主主義の追求

コーテンは、経済生活の組み立てに普遍の法則があるわけではなく、定まった運命ではないと考えます。そして今日の条件のもとでも、公の場で徹底的に議論し、合意によって変

えてゆけると言います。

そこで可能なところでは、労働者所有の協同組合化を進めてゆこうといます。地域づくりについても「地域通貨の利用促進」を支持します。『経済民主主義を機能させる・・・労働者所有企業を成立・経営するための実践ガイド』という、労働者による所有制（新規設立、労働者による自社買収）にとりくんだ本を紹介しています。同書 P.403

また「あなたが労働組合員であるならば、・・・年金基金を利用して優良企業買収を進め、優良企業が利害関係者による所有企業に転換するのを促進することもできる」同書 P.402と述べています。たしかに大きな労働組合は相当なお金を積み立てることができます。

このようにコーテン氏は、大企業優遇の政治変革に取り組むことを訴えつつも、実際に経済民主主義の実施を進めてゆくことも奨励しており、文化も含む全面的なアプローチとなっています。

コーテン氏の特徴は、公の場で議論し、合意づくりを進め、実践的に世界的に協力の輪をひろげています。自分自身もアメリカで「民衆中心の発展フォーラム」という NGO を主宰しつつ、数多くの NGO との連携を進め、インドのヴァンダナ・シヴァなどと「グローバル市民社会」という世界的な市民運動をたちあげています。

「協力の規模を拡大していくことは、生命の進化にとっても、人類の進歩にとっても、長い間重要な要素だった。協力の規模が拡大すると、自分が属する全体の外枠への理解も広がった。個人の幸福は地球全体の幸福にかかわっていることを認識して、協力と自己認識の範囲を広げるべき時が来ている」同書 P.429

リンクしてください。

『グローバル経済という怪物 人間不在の世界から市民社会の復権へ』

<http://www.amazon.co.jp/%E3%82%B0%E3%83%AD%E3%83%BC%E3%83%90%E3%83%AB%E7%B5%8C%E6%B8%88%E3%81%A8%E3%81%84%E3%81%86%E6%80%AA%E7%89%A9%E2%80%95%E4%BA%BA%E9%96%93%E4%B8%8D%E5%9C%A8%E3%81%AE%E4%B8%96%E7%95%8C%E3%81%8B%E3%82%89%E5%B8%82%E6%B0%91%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E3%81%AE%E5%BE%A9%E6%A8%A9%E3%81%B8-21%E4%B8%96%E7%B4%80%E3%83%92%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%83%AB%E3%83%8D%E3%82%B5%E3%83%B3%E3%82%B9%E4%BA%BA%E9%96%93%E6%80%A7%E5%BE%A9%E8%88%88-%E3%83%87%E3%83%93%E3%83%83%E3%83%89%E3%83%BBC-%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%86%E3%83%B3/dp/443170731X>

『ポスト大企業の世界 貨幣中心の市場経済から人間中心の社会へ』

<http://www.amazon.co.jp/%E3%83%9D%E3%82%B9%E3%83%88%E5%A4%A7%E4%BC%81%E6%A5%AD%E3%81%AE%E4%B8%96%E7%95%8C%E2%80%95%E8%B2%A8%E5%B9%A3%E4%B8%AD%E5%BF%83%E3%81%AE%E5%B8%82%E5%A0%B4%E7>

%B5%8C%E6%B8%88%E3%81%8B%E3%82%89%E4%BA%BA%E9%96%93%E4%B8%
AD%E5%BF%83%E3%81%AE%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E3%81%B8-%E3%83%87%
E3%83%93%E3%83%83%E3%83%88-%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%83%86%E3%83
%B3/dp/4431708871